

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103111		
法人名	有限会社 國村不動産		
事業所名	グループホーム 愛の里		
所在地	香川県高松市上福岡町1240番地		
自己評価作成日	平成23年3月23日	評価結果市町受理日	平成21年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770103111&SCD=320&PCD=37
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成23年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>様々な行事や作業を通して、残存能力を活かし、できることを見つけ、利用者が自信を持って生活できる環境を提供すること。 芸能ボランティアを多く受け入れており、利用者の生活にメリハリを与えている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>建物は、3階建てのビルであるが、堅苦しさを感じさせないようプランターの花々が玄関先を彩り、迎えてくれる。「笑顔で過ごしましょう。」を理念に、利用者が笑顔で過ごせるように、くもん学習療法を取り入れたり、地域との交流を積極的に行っている。特に地域交流では、近所の喫茶店や精肉店と交流をしたり、地域の消防団との消防体制について話し合ったり、定期的に近所の公園を清掃するなど、小さな地域交流を拡大しており、地域の中に根付いたグループホームづくりを着実に体現している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム 愛の里(2F)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の共同生活を、利用者本位とし、個人の尊厳と自立を考えられるよう身近な言い表し方で運営理念を具体化した。朝の引き継ぎ時に、始まりの挨拶としていたが、できていない日が多くなったため、朝食前の嚙下体操後、理念の言葉「笑顔で過ごしましょう」を利用者と共に発声している。	「笑顔で過ごしましょう」を唱和したり、話し合いの中で共有することで、基本理念は浸透している。職員は、くもん学習療法などの独自の活動を交えながら、笑顔になるように工夫をしている。	「笑顔で過ごしましょう」の基本理念を実践するために、具体的な手法とを結びつける文言を職員間で話し合われることに期待したい。そして、分かりやすくした基本理念をパンフレットに記載することで、家族や地域の人たちに広められることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長より協力や助言をいただき、取り組んでいる。月一回、近所の喫茶店に招待され出かけている。夏祭りには子供の参加、どでかぼちゃづくりによるハロウィン時の保育所との交流等がある。また施設で作ったどでかぼちやを、近隣の商店や銀行に展示していただいている。地域行事の防災訓練にも参加している。	定期的な散歩や外出・外食を行い、近所の喫茶店や精肉店との交流を深めている。また、地域の自治会長とつながりを持ち、そこから地域の消防団との防災活動に発展させるなど、独自の取り組みに厚みを持たせている。他にも、公園の清掃等で地域貢献も行っている。	地域交流が拡がる取り組みの一環として、地域の民生委員との交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の新聞を発行し、家族や入居者に見ていただいている。新聞の中には、認知症についての内容を分かりやすく掲載している。月間行事のポスターを、地域の商店に掲示していただき、行事を通じての地域交流や認知症の人の理解、協力支援についての場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のメンバーに、行事に参加していただき、助言や感想をいただいている。また相談した内容についてなどを全体会議やユニットで話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議のメンバーに、近所の方の参加が多く、地域に密着している姿がうかがえる。また、議事の内容もグループホーム内の援助のことから、消防団との連携等、地域とのつながりに関することまで話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に連絡を取り、より良い運営ができるように相談や情報収集を行っている。また地域の公園の利用、車椅子や夏祭りの提灯の借用等、市町村と連携を行い、質の向上に努めている。どでかぼちやを通じて、保育所や地域施設との交流も図れている。	市町担当者に、定期的な運営推進会議に参加してもらうことにより、気軽に運営に関する相談を行っている。また、グループホームのまつりに使用するうちわを手配してもらうなど、助言や協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や勉強会を行い、全職員が正しく身体拘束を理解している。日中、施設一階玄関の施錠は行っていないが、各フロア等の階段出入り口等に関しては、利用者の安全面を考慮し、施錠している場所もある。身体拘束についての理解だけでなく、安定、安全面に向けたケアに取り組んでいる。	階段出入り口への施錠等についても、職員会議で議論し、身体拘束をしないケアの実践に向け、常に議論が行われている。外出したがる利用者への対応も、一緒に散歩に行くなどの工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から、どのような内容が虐待にあたるのかを勉強会やミーティングで指導し、常に虐待のないよう意識し合い、日常の言葉遣いにも注意を払っている。叱責語に関する勉強会も行い、対利用者及び職員間で使わないよう「言葉の虐待」について一緒にロールプレイングを行い、理解を深め合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について理解することの大切さは分っているが、十分にはできていない。司法書士の方に来ていただき、勉強会を開いた。推進会議のメンバーの中に、司法書士の方がおり、わからないことは、いつでも身近に質問することができる。勉強会を継続して行い、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に、入居者及び家族に契約書や重要事項説明書等の疑問点などが無いように、納得、理解していただけるよう時間を十分にとり、丁寧で分かりやすい説明を心がけている。また利用者の状態変化による契約解除の場合は、家族等に対応方針を説明し、可能な支援をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、面会時の話し合いの内容など、家族会や運営推進会議に意見をいただいている。意見箱の設置、面会時等の声かけ時に、何でも言って貰えるような雰囲気づくりに留意し、要望などはミーティング等で話し合い、前向きに取り組んでいる。また随時、連絡ノート等で情報を共有し合い、早期に反映していけるよう心がけている。	3か月に1回、家族会を開催し、意見を聴取している。その意見の聴取方法も全体的なものだけでなく、個別の意見が聴取できるよう、個別に話を聞く時間も設けるなど、工夫をしている。その他、意見箱での意見を参考にしたり、面会時に意見を聴取するなど、意見を反映させようと努めている。	表面化しにくい意見を、広く聴取するために、満足度調査やアンケート等をグループホーム独自で行うなどの工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議とユニットミーティングで、意見を聞いている。また、各担当者において、個別に意見を聞く機会を設けている。必要な変更・改善は可能なかぎり早期に対応している。	月一回全体会議とユニットミーティングで意見を聞き、運営に反映させようとしている。最近では、事故リスクに関しての入浴補助用具の見直し、意見としてあがり、改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりに相談、助言等を行い、向き合うことで、個人の不安点、問題点等の早期の解決、成長、ケアの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。勤務については、月に3回、希望休を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた研修を勧めたり、指導を行っている。個々が進んで、積極的に研修に参加できるよう資料、冊子等を閲覧している。また各個人が研修してきた内容についても、勉強会に取り入れ、職員全体を通じての質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研修会等で、一緒になった同業者と意見交換を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や相談を本人自身より、いろんな方向からゆったりと話ができるように笑顔で傾聴できるよう努めている。(食事の時、おやつ、入浴時、レクリエーション等)また本人の訴えが聞き取れない時には、家族から相談が主となり、それらを基に相談や支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の思い、状況等を確認しながら面接チェック表等を作成している。不安や要望等をより多く受け止められるよう努め、要望等では全職員が全体会議、ミーティング等で共有し、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の説明を行い、本人、家族の実情や要望を基に、何が必要かを見極め、事業所として、できるかぎりの対応に努めている。一人で困難な問題は職員全員で話し合いを行い、どうすれば良いかを考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人にあった役割分担を考えている。食後、お盆拭きをする人、洗濯物をたたむ人など、日常生活を共に、支援しながら行っている。していただいたことに対し、必ず感謝の気持ちを伝え、お互いが協力しながら生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個別ケアに取り組む中、職員に担当の利用者(部屋担当)を設けている。月間報告書とは別に、利用者の変化等、家族と連絡を取りながら、利用者を支える関係を築いている。リハビリや受診等も家族と連携を取りながら取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等と連絡を取り、知人、甥、姪、孫等に面会に来ていただいたり、家族との外出をしていただいている。慶弔時への参加も積極的に支援している。	家族・友人に働きかけ、馴染みの関係が途切れないように面会や外出等の支援をしている。また、馴染みの場にも着目し、外出時に行けるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会や外出行事を合同で行うことにより、ユニットが別々になっている利用者同士も交流が図れており、関係を深める時間となっている。また共同制作物等を提案し、作業に取り組む中で関わり合い、支え合いが見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した本人の介護用品の相談を行っている。家族からの相談に助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中は、馴染み深い音楽を流し、音楽鑑賞をしていただいている。本人の嗜好品のお酒等についての希望や意向を聞き、可能な限り取り入れるように努めている。また各個人の生活歴を把握し、居室は居心地の良い馴染みの環境づくりに努めている。	本人や家族からの意見を確認するとともに、本人の趣味・嗜好を把握することで、訴えることのできない思いや意向を確認しようとしている。また、確認した思いや意向が実現できるように、外出、日々の活動、地域との交流に取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人が自分らしく生活していく支援として、個々の歴史やサービス利用に至るまでの生活が維持していけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアプラン計画ができているかどうか、ひと目で分かるよう、記録の書式の見直しに取り組んだ。一日の生活の流れや過ごし方を、職員全員が見落としなく理解できるよう、努めている。勤務交代時の申し送りも適切に行え、利用者には不都合がないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアプラン実施を介護日誌内に、記号で表記しモニタリングを行っている。月一回、介護支援専門員と利用者担当のスタッフを中心にミーティングの場で、意見やアイデアを出し合い、介護計画の作成、見直しをしている。利用者の現状の情報共有を行い、より良い対応の在り方を検討しあっている。	本人の意見は現場の中で、家族の意見は、面会時や家族会の中で、職員の意見は、月1回の職員会議で聴取し、チームとして介護計画を立案しようとしている。また、モニタリングも定期的に行われ、必要時に見直しが行われている。	家族の都合もあり、調整が大変ではあるが、一人からでも本人・家族を交えたサービス担当者会議の実現に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別通院ファイル、業務日誌、介護記録で対応しており、介護計画の見直しに活かしている。利用者の状況を話し合い、より良い対応のあり方を検討しあっている。家族との連絡は健康面、精神面を中心に連絡し合っている。伝達事項は申し送りノートに記入し、また、ミーティングにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族状況の要望に向き合い、職員全員で話し合い、連携ができています。受診を行うなど、また本人の生活を安定し、支えられることを念頭に、プランの変更や物品の購入等、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の木々や花を楽しむため、近隣の公園などに散歩を行っている。近隣の喫茶店を月一回開放していただき、外出でのコーヒータイムを楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等と密に話し合い、適切な医療が受けられるよう、馴染みのかかりつけ医や事業所協力医院への、スムーズな受診を支援している。要望等に応じて、主治医と相談のうえ、訪問診療や訪問リハビリについても対応を行っている。	協力医院との関係は良く、必要時の連絡が職員と医療機関、職員と家族で行われている。また、元々のかかりつけ医との関係を保つことが可能であり、適時、送迎やつきそいをし、受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に健康管理について相談ができる体制を取っている。内用薬等についても医療機関、看護職員と相談を行いながら、管理、対応を行っている。利用者の変化がある場合には、協力医院等の医師や看護職員と相談などを行い、随時受診するなど対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、馴染みの職員が見舞い、安心していただいている。また家族や病院関係者との回復状況等の情報交換を行いながら、退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について本人、家族の希望を聞き、事業所できるかぎりの希望にそえるような支援を心がけ、方針を共有している。また医療度の高い利用者は、主治医とも話し合い、利用者にとって、より良い対応ができるように支援している。また終末期の利用者への対応マニュアルに沿い、全ての職員が不安なく支援を行えるよう、様々な内容の勉強会を開催している。	グループホームの終末期におけるあり方を家族に相談・説明をしている。また、終末ケアは未経験であることから、職員が不安に感じないようにマニュアル等を基本に勉強会も開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥等、利用者の身体状態の急変や事故発生時に的確な対応ができるよう、定期的な勉強会を行っている。また消防署職員に来ていただき、救急時の対応についての勉強会を実施し、指導を定期的に受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、災害時の避難誘導について指導を受けている。家族会でも説明を行い、話し合う場を設けている。スプリンクラーの設備を設置している。	年2回の防災訓練を実施し、地域の消防団との連携を深める取り組みもしている。また、火災以外の災害については、話し合いを始め、対策を講じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助時、戸を閉める、居室でのオムツ交換時、戸を閉める・入浴後の更衣時、バスタオルをかける等、プライバシー保護に努めている。個人の誇り、自尊心を尊重し、プライバシーの確保を統一、徹底して行えるよう、話し合いをしている。	全介助でのポータブルトイレ使用者に対して、扉を閉める、スクリーンを設置するなどの取り組みが行われている。また、閉められないケースにおいても、バスタオルを使用するなど、工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事について、体調に合わせて形態等を変更し、柔軟に対応を行っている。外出や行事参加等についても、本人の希望や意向の尊重、好みの把握を行っての声かけ等を行い、働きかけているが十分にできていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの参加等、個々の状態を考慮しながら柔軟に対応を行っている。その日、その時の利用者の体調や状態、生活リズム、本人の希望に添った暮らしを提供できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を希望される利用者には、化粧の支援、長髪を好まれる利用者には、整髪の支援をするなど、個人の希望にそった支援を行っている。また本人や家族から希望がある場合は、個人のバリカンで散髪を行っている。美容院への外出を希望されない方には地域の美容師の方に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食の方には、何のおかずであるか声かけをしながら、食事介助、見守りを行っている。食事メニューについて利用者と話し合ったり、食事中には食材や料理の話題を共にすることで楽しい時間になるよう努めている。またお盆を並べての準備やお膳を下げるなどの片付けを一緒にしている。	ミキサー食の方に対して、おやつだけでも固形物をと考え、なるべく目で見て楽しめるように工夫をしている。また、食器や自助具を工夫することで、自力摂取を促したり、馴染みのある食事を演出しようとしている。片付けも行っていただくことで、食事全体を楽しめるように工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない方へは、好みの飲料の提供で増量を図っている。嚥下状態に応じて、とろみ剤を使用し、水分確保ができるよう支援している。コップによっての水分量の確認を行い、摂取量も詳しく日誌へと記録し、必要量の確保に努めている。食事摂取量やバランスも個々の状態にそえるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別の口腔状態に応じ、義歯洗浄・消毒・歯磨き支援・うがい支援・確認等を行っている。その際、口腔内、義歯等の確認を行い、必要に応じて、歯科医受診等を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのない利用者には、定期的な時間排泄や言葉かけによる排泄介助を行いながら、個人の排泄リズムを把握できるよう工夫し、自立に向けた支援に努めている。排泄間隔を理解、把握し、プライバシーを尊重しながら排泄してもらっている。	記録を活用し、個別の排泄リズムを把握したうえで、排泄の訴えのない利用者には、定期的な時間排泄や言葉かけによる排泄介助を行っている。また、バスタオルをかけるなど、プライバシーへの配慮を行い、自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの嗜好品等で、できるだけ水分摂取をしていただけるよう取り組んでいる。排便チェック表を活用し、個人の排便管理、把握に努めている。できるだけ下剤等を使用しないよう、家族と相談のうえ、飲食物(野菜ジュース)や乳製品(ヨーグルト)を摂取していただき、運動への誘導等も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日等は、職員の決めた入浴時間になっているが、入浴されている時間内は本人の希望にそった入浴を楽しめる時間(長湯を好まれる方には、体調に応じて可能な限り、浴槽内の時間を楽しんでいただくなど)となるよう支援を心がけている。	原則的に午後からの入浴としているが、希望があれば対応したいと考えている。また、入浴が安全かつ安心したうえで楽しめるように、福祉用具の活用について検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	腰痛がある利用者には、痛みに応じて居室での臥床による休息をしていただいている。浮腫の見られる利用者は、就寝時、下肢挙上して休んでいただくなど、個人の体調やバイタル等に気を配り、生活習慣を考慮して適切な声かけや必要に応じた休息や安眠への支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食時の服薬確認と介護記録への記入を行い、徹底した確認と支援を行っている。また介護記録とは別に、個別の受診ファイルを設定しており、随時一人ひとりの内用薬の用法、用量等についての確認、把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、選択たみなど、軽作業等の依頼を行い、得意分野での力が発揮できるよう支援している。常に感謝や励ましの言葉を伝え、張り合いや喜びを感じていただきながら、生活できるよう支援している。主に家事をしてくださる方、趣味を活かし園芸等を楽しまれる方など、様々である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望や嗜好に応じて、少人数で短時間の外出にも取り組み、近隣の公園等への散歩や買い物等を行っている。また外食レクリエーションでは、レストラン等の協力を得て、普段と違った雰囲気や食事を楽しんでいただいている。本人の希望等を家族との相談しながら、参加が可能な家族と共に行っている。	週1~2回は散歩に出かけるようしている。また、少人数での外出・外食も定期的に行い、支援している。また、個別の外出機会をより多くするために、家族と相談している。	行事としてではなく、個別化した日常的な外出の機会を増やす工夫・取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい利用者については本人と家族などと相談しながら、病院受診時に支払いをしていただいたり、買い物や参拝時に自分で金銭に触れて支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への直筆の年賀状の作成や、送付の支援を行っている。また希望に応じて、電話使用の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花を生ける、季節行事の飾りなどを飾ることにより季節感を取り入れ、感じていただいている。浴室やトイレ等は、安心して居心地良く過ごせるよう、危険物の除去、清潔感の保持等に努めている。	食事テーブルだけでなく、ソファ、畳の間などを準備し、くつろげる空間がある。装飾も華美に飾ることなく、高齢者向けの空間を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、エレベーター前には椅子を置いている。また和室で休んでいただけるスペースを設け、思い思いに、くつろげる場所の提供を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや椅子等の家具を使用したり、仏壇を持って来られるなどして、本人が居心地良く、安心して過ごせるようにしている。またお好みのカーテンを使用している。	自宅で使用していた家具等を持ち込まれている。また、その人の趣味・嗜好に合わせた装飾品や写真が置かれており、その人にあった居室が準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて浴室の手すりを見直した。転倒時の骨折予防のため、フロアは圧縮素材が使用され、安全面を考慮している。また個別ケアを尊重し、個人に合わせて掃除や洗濯等、できることを見つけ、役割や生き甲斐を見出し、力を活かす支援に努めている。トイレ、浴室等の場所を記している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やトイレに理念を書いた紙を貼り、いつも意識して業務にあたるよう心がけている。以前は朝の引継ぎ時に復唱していたが、最近はできていない。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長にも推進会議に参加していただき協力や助言をいただいている。また月に一度近所の喫茶店を無料開放していただき、コーヒーをいただきながら交流を楽しんでいる。夏祭りには子ども会の参加、ハロウィンには保育所との交流をしている。また施設で作った、どでかぼちやを近隣の商店や銀行に展示していただいている。地域の防災訓練にも参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の新聞を作り、認知症についての記事載せて家族や入居者に見ていただいている。月間行事のポスターを地域の商店に掲示していただき、行事を通じて理解や支援をいただけるよう取り組んでいる。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告や話し合いを行い、参加者の意見を参考に、サービスの向上に努めている。また相談していただいた助言などを会議で話し合い、質の向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、協力関係を築けるよう相談や報告を行っている。また地域の公園の使用、車椅子や夏祭りのちょうちんの借用など連携を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは何かを、常に考えながらのケアを心がけている。また、ミーティングなどでも話し合っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会にて、虐待について学ぶ機会を持っている。職員同士で言葉づかいなどの注意をし合い、虐待防止に努めている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会があったが、活用する機会を持っていない。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に十分時間を取り、不安や疑問点のないよう説明を行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議や面接の際に、気軽に意見や要望を話せる関係づくりに取り組んでいる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に、全体での職員会議を、意見収集の場としているが、職員によって意見を言う言わないの差が激しく、等しく正しく反映させているとは言い難い。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが担当や何らかの役割を持ち、やりがいを持って働けるようにしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修や、内部研修に積極的に取り組んでいる。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習会などで同業者と交流する機会をとれているが、相互訪問などの取り組みはまだできていない。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を通して、できるかぎり本人が困っていることや不安なことを聴き取り、関係づくりに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談に十分な時間を取り、関係づくりに取り組んでいる。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の説明を行い、本人や家族の実情や要望をもとに何が必要かを見極め、できるかぎりの対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除や洗濯物を干したり、たたんだり、おやつを一緒に作ったりなど、それぞれ利用者のできることをしていただくよう声かけをしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の受診や外出への取り組みなど、できるだけ家族にも関わっていただけるよう連絡調整している。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる方との交流は、支援できているが、利用者が馴染みの人や場所との関係を続ける支援はできていない。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が口論になることがあるが、仲裁しながら関係性の改善に努めている。利用者同士での談笑が増えてきている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了した本人や、家族に何かあったら、いつでも相談に応じる姿勢を示している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や入浴等の時間は決められているが、それ以外の時間は極力ご本人の希望に沿って過ごしていただけるようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中でそれまでの暮らしについてお聞きしたり、家族にお聞きしたりして把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務の中で、一人ひとりの現状の把握に努め、変化があれば、その都度、申し送りをしたり、管理者や看護師に報告するようしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロアミーティングで、基本的に話し合いをしている。家族や必要な関係者には面会時や、電話などで相談をしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人別に24時間の様子が分かる介護記録と、一日の特記事項が分かる業務日誌を記入して情報の共有を図っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や、希望に応じて受診援助や散髪の実施などに取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある公園への散歩や、幼稚園児との交流を図るなどしている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院に転院される方もいるが、本人や家族の希望にそって、それまでのかかりつけ医に受診の支援をしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	別フロアに所属している看護職員に随時、報告・相談をしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の状態を詳しく文書にして医療機関に提出し、安心して入院していただけるようにしている。また、面会時などに情報交換を行っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期をどうされるか家族と相談しているが、真に具体的な対応については、本人や家族と話し合いができていない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を受講したり、定期的に防火訓練を行ったりして、実践力の向上に努めている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を行い、避難できる方法を学習している。推進会議などで、地域のメンバーから地区の消防団について情報を得たが、まだ確たる協力体制は築けていない。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけているが不十分な時もあり、随時指導をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの洋服を着たいかなど、本人が自己決定できるように働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な時間は決まっているが、本人の体調や希望などにそえるよう努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性利用者は毎朝髭剃りができるように支援している。女性入居者はお化粧をされたり化粧水や乳液を、希望により使っていたりするように支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や、食器の後片付けなどできることをその時の状態に合わせて、一緒に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事(副食)やおやつ量は決まっているので、ご飯(主食)の量で調整している。水分も必要量を確保できるよう声かけをしている。摂取量の少ない方は、特に記録している。それぞれに合わせて食べやすい形態にして提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの状態に応じて、口腔ケアができるよう声かけ及び介助を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後や、定時を含めて、随時排泄の声かけを行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方は、水分を多めに摂っていただくようにしている。緩下剤や下剤を個々に応じて服用していただいている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、気兼ねなく入浴していただけるよう、ご本人のタイミングに合わせて声かけをしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝や、ソファでうたた寝など、ゆっくり休息していただいている。夜間も安心して眠れるよう室温や照明に気をつけている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の用法や用量は把握しているが、副作用までは十分理解できていない。服薬の支援や症状の変化の確認には努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	色塗りや折り紙等のレクリエーションや、風船バレー等の運動で楽しみが持てるよう支援をしている。お茶の先生をしていた方には、時々抹茶を点ていただいている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や利用者の希望で散歩などに出かけられるよう、取り組んでいる。決まった曜日や年末年始など特別な時期に、家族の協力で出かける方はおられるが、普段は行けないような場所への日常的な外出はできていない。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を使う機会はほとんどない。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援をしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や、行事の写真を飾り、生活空間では室温や湿度に気をつけている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは3人掛けで、いつも決まった方が利用している。他の方はホールの椅子に座られ、好きな時間を過ごされている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇・写真などを持参していただいている。また、家族と相談し、ほとんどの居室に加湿器を設置し、居心地良く過ごしていただけるようにしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日中トイレ回数の多い方には、居室にポータブルトイレを設置して、気がねなく排泄していただいている。トイレやお風呂の場所が覚えられない方には、その都度、誘導している。